

Title	言語文化学 Vol.18 編集後記
Author(s)	岩根, 久
Citation	大阪大学言語文化学. 2009, 18, p. 242-242
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77838
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

皆様のご協力ももちまして『言語文化学』第18号を無事刊行することができました。論文37編・研究ノート1編の応募があり、そのうち提出された論文29編・研究ノート1編につき、厳正な審査の結果、論文16編・研究ノート1編を採択することとなりました。論文・研究ノートの査読をお引き受けいただいた先生方にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

学会の活動としては、33回大会（6月28日）、34回大会（10月30日）を開催しました。34回大会は言語社会学会との共同開催で行ない、初の言語社会学会・言語文化学会の合同研究発表会となりました。言語社会学会からは6名、言語文化学会からは8名の発表者があり、活発な議論が交わされました。大阪外国語大学との統合後、両学会の交流の場を提供できたことは大きな成果だと考えております。

学会誌編集に関しては、編集作業を円滑に行なうために今年度より執筆要項確認用の「投稿論文チェックシート」、文字数確認用の「文字カウントシート」を執筆者に提出してもらうようにしました。また、編集プロセスのマニュアルを整備し、懸案になっていた執筆要項の改訂にも着手しました。広報活動に関しては、言語文化学会よりのお知らせ用のホームページを作成しました。これらが次年度の作業の軽減に繋がれば幸いです。

最後に、今年度の学会運営にあたってご協力いただいた方々に感謝の意を表したいと思います。教員委員として、会計・名簿管理・問い合わせ対応等の事務局業務をご担当いただいた三宅先生、学会誌の原稿募集から査読段階までをご担当いただいた早瀬先生、学会誌の入稿、印刷完了までを担当いただいた小門先生、33回大会の運営をご担当いただいた成田先生、34回大会の運営をご担当いただいた佐藤先生、書記として議事録の作成のみならず学会誌編集にあたってのマニュアルの整備および執筆要項の改訂にご尽力いただいた福田先生、前年度の委員長として常に適切な助言を下された北村先生、学生委員として様々な作業を分担していただいた大学院生の藤浦さん、田さん、谷さん、濱上さん、山本さん、また大会時の受付で配慮のいきとどいた指揮をとって下さった大学院資料室の大野さん、ありがとうございました。

2009年2月

大阪大学言語文化学会委員長 岩根 久